

日米医学医療交流財団 研修助成

研修報告書 (2014年度 助成者)

作成日 2014年10月24日

氏名 (フリガナ)	福田 ひとみ (フクダ ヒトミ)
研修名・研修地	アメリカ短期看護研修 (アメリカ・オレゴン州ポートランド市)
研修期間	2014年10月12日 (日) ~ 10月18日 (土)
所属機関名	篠田総合病院
身分	看護師

私は今回、アメリカ短期看護研修に参加させて頂きました。私は今まで海外へ行った経験もなく、英語力にも自信がありませんでした。大きな不安を抱えたまま、強い興味と好奇心だけを持っての出国となりました。しかし、1週間という短い期間でしたが、これ以上にないとても深い学びを得ることができました。

まず、日本とアメリカの医療制度の違いに驚きました。アメリカの保険への加入は主に就業を通じて行われます。加入する保険により自己負担額は異なり様々です。「全ての人に医療が受けられるように」とオバマケアも浸透し始めているようですが、仕事がなく保険に加入していない人も多くいるのが現状です。膨大な医療費を支払うことができず、医療を受けられない人もいます。日本を出ると、ルールも人の考え方もここまで違うことに驚きました。

また、印象的だったのは尊厳死についての講義です。オレゴン州ではPAD (尊厳死) が認められています。生死に対する倫理感是人により異なります。その死に対する考え方を現地の方や参加者と話合うとてもいい機会でした。日々の業務の中でも人の死に直面することが多くあります。ですから私の中での人の死とは流れる水のようなものになりつつありました。しかし、このように時間を持って1つのことを人と話合うことで改めて自分の死に対する捉え方と価値観を明確にすることができました。「自分のことは自分で決める。だから、死に対しても自分で決める権利がある。」という主体性のある考え方が、この自由で独創性溢れるアメリカという国を作っているように感じました。

研修中は講義の他に多くの医療施設などを訪問させて頂きました。どの施設の医療設備も素晴らしかったのですが、何より働くスタッフが素敵でした。皆さんとても活気に溢れパワフルで生き生きと働いていました。Providence Portland Medical CenterにてICUを見学した際、現地のスタッフが仕事に対し「忙しいけれど、やりがいがある!」と言っていたのが印象的でした。日本での看護業務はDrの指示のもと医療行為を行います。しかしアメリカでは看護師の判断で動ける範囲は日本よりはるかに広いです。そしてその分責任もあるため常に継続学習が求められるため、仕事に対する強い信念と個々のモチベーションの高さを伺い知ることができました。そして、私自信も彼らのように一看護師としてそうあり続けようと感じました。

また、カラログ・テラス高齢者施設では移住者と折り紙や習字などのレクリエーションをしました。皆さん震える手で墨汁のついた筆を持ち、初めての日本の漢字と一緒に書いてくれました。「very good!!」と言うと、「Thank you」と嬉しそうに握手をしてくれました。英語力には自信はなかったですが話したい、伝えたい、という思いがあれば相手にもその思いは伝わります。それは全ての人間に共通することなのだ実感することができました。そして、もっと自分の国の文化を知るべきだと思いました。そんな広い視野で物事を見て、考えることができるようになったのも、この研修に参加して得た財産の一つです。

また研修中、全国各地からの参加者とも交流を深めることができました。お互いのこと、夢、目標を話して私自信のモチベーションも大きく向上しました。この研修を通して新たな目標と夢を見つけることができました。そして共に夢を語り合える仲間に出会うことができました。7日間はあっという間に終わり、日々の生活に戻りました。そして、ここから新たに今まで踏み出すことができなかった更なる一步を踏み出し、日々前進していきたいと思えます。

最後に今回の研修でお世話になった方々、日米医学医療交流財団の方々に御礼申し上げます。本当に有難うございました。